

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100483		
法人名	有限会社ケアサービスおちあい		
事業所名	グループホーム かんとう		
所在地	秋田市檜山川川口境11番17号		
自己評価作成日	平成28年12月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くを流れる太平川は、春には桜が咲きほこり綺麗な桜並木となり、竿燈まつりの時期には竿燈ばやしや町内に聞こえてくるところに「かんとう」があります。平成24年4月1日に開設しております。認知症ケア研修を月に一度実施しており認知症の病気の理解・対応の仕方等身についてきております。入居者様一人ひとりの尊厳の尊重、言葉使いには十分配慮しております。また出来る事を見極めその人らしさを出せる環境や雰囲気作りに努めており、ご家族様とも密に情報交換を行い、信頼関係を築いています。地域との関わりを持ちながら住み慣れた所で、聞きなれた音、見慣れた風景。四季の流れやにおいを感じる。そんな場所で人生を最後まで生き生きと楽しく過ごせる日々・・・そんな人生のサポートを常に考えサポートしていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者と職員みんなが和気藹々と過ごされており、笑いが多い事業所である。施設独自の様式の「利用者様の一日」には、時系列で細かい事(嗜好品・量・希望等)まで詳しく記載されており、全職員が全利用者の情報を共有し、排他介助や食事・外出の希望等、一人ひとりに丁寧に対応している。うまく答えられない利用者には選択しやすい工夫、どうすれば反応してくれるか、言葉以外の意思表示の方法を日々工夫している。水分量一日2,000ml以上、加湿量は60%以上を徹底しており、健康管理には特に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やスタッフがいつも目に付く所に掲示している。各ユニットで独自の理念を作り上げ共有している。それを共有する事で一つの目標に繋げ実践している。	各ユニット独自の理念は、毎年度末に「実践できているか?」「これも出来るのでは?」と振り返り、来年に向けて個々の目標課題を持ち、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年竿燈祭りでは川口境の竿燈会がホーム前で披露して頂き近所の方も見物に来られる事が定着している。榎山地区のかまくら祭りに準備段階から参加し、地域の方々と交流を深めている。毎年の行事として継続している。	毎年恒例行事の他、今年度は新たに、近所に開設された児童デイサービスとの交流も行われるようになった。近所への散歩中の挨拶から交流が始まり、施設で行われる西瓜割や、収穫祭でのだまご祭りに参加してくれている。また、国際教養大学の生徒が秋田の文化を学ぶために、きりたんぼ作りに参加してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議等を開催し、認知症の方への理解や支援の方法を地域の方々に伝え、地域貢献している。秋田市からの行方不明者の搜索願も町内会長へ連絡し、行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況やホームでの普段の生活の様子を報告している。町内会長員・民生委員・入居者様ご家族・包括支援センターの方々からの意見を頂き運営の参考にし、サービスの向上に活かしている。	地域包括支援センターの実習生(秋田大医)など、色々な人が参加する機会がある。会議では、「高齢者探してネットワーク」等の情報を収集し、職員で周知し、高齢行方不明者を買物外出の際に気を付けてみる等、サービス内で活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の保護課担当者と権利擁護サービス担当者と密に連絡を取っている。積極的に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。	市の保護課担当者は定期的面談の際に、職員には言いにくい事等、利用者の要望を聞いてくれたりと、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や随時カンファレンスを開催している。研修などで身体拘束の理解を深めるなどし、身体拘束を行わないケアに全職員で取り組んでいる。	グループホーム連絡会での外部研修に参加したり、年に1回は内部研修で勉強会を行い、身体拘束についての知識を共有しており、身体拘束の事例は無い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	今年も管理者や職員は虐待等の研修に参加し内容を内部研修として報告している。日々職員同士で声掛け等意識しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で、数名権利擁護の制度を利用している。管理者と職員は秋田県認知症グループホーム連絡会の研修に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書の内容を説明している。不安や疑問があれば、その都度親身になり対応し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様が気兼ねなく話し合う環境・雰囲気作りを努めている。面会時、状況報告を行い、ご家族様の要望・意見を運営推進会議やカンファレンスなどで話し合い運営に反映している。	施設になかなか面会に行けないので、報告が欲しいとの要望があり、毎月担当職員がカードに近い状況を書いて家族に報告を行うようになった他、居室担当が利用者の要望を聞く姿勢を作り、入居時はどこの床屋でも良いと話されていた利用者が、今までの所に行きたいと言える環境を作りあげ、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議などで提案したり、意見や要望を汲み取る様に努力している。運営推進会議に議題としてあげて外部の方へも報告し、運営に反映している。	月1回の職員会議やユニット会議で管理者が意見を聞き、会社に報告している。普段は伺い書を提出するが、クリスマス会の食材等、決済前に必要になったものは、電話で依頼し、対応してもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度も自己評価チェック・職員の努力や勤務状況を把握し資格取得を促している。理念に基づき個々が目標を定めて向上心を持って働ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議時や月に1~2回内部研修を開催している。外部研修へ参加しスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も秋田市認知症グループホーム連絡会に参加し、事例検討や相互訪問等の交流を図る事によりサービスの質の向上に努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい入居が少ないが、ご本人のお話に耳を傾けて受容・共感し信頼関係を築いている。その人を知るため、日々情報の収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問等でご家族様の様々なご要望に答えている。毎月入居されてからの生活の様子などをお便りで報告する事を開始してからもご家族様と連携を密にし関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを行い、ご本人の出来る事・出来ない事を見極めている。ご本人の体調に合わせて、食事の準備や盛り付け、洗濯たたみなどを一緒に行う事で関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方々が面会に来られた際には状況報告を行っている。今年も家族交流会を開催するなどして共にご本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がホームを訪れる機会が多く、ホール内や居室などで安心して過ごされている。馴染みの方との関係が途切れない様にご本人の外出も支援している。	利用者の同級生の娘さんの床屋や、市場でのたらこ購入、ドン・キホーテの大阪王将の餃子等、一人ひとりのこだわりや馴染みの場所への支援を行う他、年賀状を出す手伝い、友達への電話連絡の手伝い等、個々の要望に沿って支援している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様が一人にならない様周囲との関係に配慮している。入居者様同士の相性等を把握した上で職員が間に入り支える様な支援に努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も介護に関わる相談を受け入れている。地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連絡調整している。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月モニタリングを実施しご本人の希望や意向の把握に努めている。課題に対して都度ケアカンファレンスを開催しご本人の思いに寄り添う様配慮している。	毎月、担当職員によるモニタリングが行われている。月1回の会議や、朝の申し送り時にカンファレンスし、情報を共有している。うまく答えられない利用者には簡単な2択等、選択しやすい工夫をしたり、どうすれば反応してくれるか、言葉以外の意思表示の方法等、工夫している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様からこれまでの生活歴等を聞き出し把握に努めている。ご本人の生活歴を可能な限り継続し入居者様一人ひとりのスタイルで生活を送れる様に配慮し、新しい気づきがあった場合もご家族様への確認も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人がお話しされた会話を記録に残し一人ひとりの現状把握に努め、申し送りを行情報を共有している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを実施している。朝の申し送り時に課題が見つければ都度カンファレンスを行っている。ご家族様にも現状を報告と確認を行い、ご本人・ご家族様の意向を踏まえて介護計画を作成している。	目標設定期間だけでなく、担当職員が毎月モニタリングを行い、必要時には、計画作成担当が作成し、職員全員回覧し、共有している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護の実践・結果等を申し送り日誌等に記入しどんなことでも情報を職員で共有している。朝・夕の申し送りに当日職員間で対応を相談し合い、その場で管理者に報告を行い実践している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内等近隣での季節の催し物に合わせて行事予定を立てている。ご本人が気分転換ができ、安心して豊かな暮らしができる様に支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医、薬剤師等の確認を行い、ホームでの提携医療機関とかかりつけ薬局を合わせて紹介し、ご本人・ご家族様の希望にそった支援を行っている。	金額的には高くなってしまいが、月に2回訪問診療に来てくれたり、夜間でも対応してくれ、安心とのことから、入居する際に、出来れば協力医である熊谷内科に変更してもらっている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師のバイタル測定や申し送り時の情報や居者様の状態を確認している。緊急時には相談し協力医療機関または主治医へ報告し指示や助言を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はワーカーや看護師と連携を図り、ご家族様とご本人様とも十分に話し合い、スムーズな入院を心掛けている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と連携を十分に取りながら、重度化や終末期の状態になった場合は主治医とご家族様とかんとうとで今後の在り方を検討している。	終末期の状態になった際、個別に会議を開催し、別ユニットのフォロー体制や、看護師連携の確認、緊急連絡網の見直しを行い、看取りを行っている。不安のある職員の時には管理者も一緒に勤務し、フォローしている。	個別で会議を開催し、方針をチームで話し合い取り組んでいるが、重度化に伴う意志確認書や、事業所が対応し得る最大のケアについて、家族に説明する際の書類等の整備に期待する。
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや連絡網を作成し備えている。また、内部研修で定期的に救急法を勉強し実践力を身に付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災非難訓練(夜間想定を含む)を年2回行っている。備蓄リストを作成し災害に備えている。	施設内に非常口がたくさんあり、どのような状態でも避難できる作りになっている。株式会社さんゆうと提携しており、消火器の使い方の訓練も行われている。	運営推進会議でも、避難訓練への地域の方の参加依頼を行っているが、参加にはつながってなく、事業所だけの訓練になってしまっている。近所にできた児童デイサービス等、新たな参加依頼箇所の構築に期待する。
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活ペースを尊重し、声掛け見守りを中心とした対応を心掛けている。秋田弁ではあるが、声掛け時は入居者様への配慮も忘れず行っている。	排泄時の声掛け等、耳元で話したり、別の内容で誘導したり、その人その人に合わせた声掛けを行っている。秋田弁等聞きなれた言葉や、本人に伝わる言葉での声掛けに気を付けている。失禁に対して怒る人、傷つく人、隠す人等、個々に対応している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員のペースではなく、入居者様のペースに合わせた対応で、各入居者様が意思決定出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースでゆったりとして頂ける様にしている。日中も居室で過ごされる方もいれば、ホールで過ごされる方もおり、ご本人様の気持ちやその時の様子を大切に希望に沿った支援をしている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時にはご本人の好みに合わせた衣類を選んで頂いている。定期的に訪問理容を利用し、ご本人様が好む髪型が出来る様に支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る事を把握し、調理・盛り付け・配膳・下膳・食器洗い・食器拭きを職員と一緒にやっている。食事時の会話を通して好みを確認している。また、季節毎にいろいろな食事を取り入れるなど季節を感じて頂ける様に支援している。	メニューを決める際、利用者に季節に合わせた料理を2択から選んでもらい、希望を取り入れられるよう工夫したり、お弁当箱に盛り付けし、食欲アップを目指したりと努力している。系列の老人ホームに提供したメニューを提示し、カロリー計算やバランス等、アドバイスや助言指導してもらっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎食ごとに記録を行い健康状態の把握に努めている。一人ひとりに合わせた食事量や食事形態を提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に合わせて声掛けや見守りを行い清潔保持に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、声掛けや誘導で入居者様へ配慮しトイレ誘導をおこなっている。また排泄パターンや習慣を活かしてトイレでの排泄や自立に向けて支援している。意思疎通の困難な方には排泄パターン以外にもご本人様の表情等を見ながら誘導し支援している。	「できるだけ布パンツ」の方針で、排泄チェック表を利用し、いつ汚れているのかを確認したり、排泄意識のある人ない人、腹圧介助が必要な人、トイレで出来る人、パット外しをしてしまう人、紙を挟んでしまう人等、一人ひとりの特徴をきちんと把握して介助しており、紙パンツから布パンツへの移行成功事例が多数ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各入居者様の水分量を2000CCを毎日の目標として、排泄チェック表も確認しながら、声掛けや誘導に配慮しトイレ誘導をおこなっている。また排泄パターンや習慣を活かしてトイレでの排泄や自立に向けて支援している。意思疎通の困難な方には排泄パターン以外にも表情等を見ながら誘導し支援している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調や出来る限りその人の希望に合わせた時間帯での入浴を提供している。好きな音楽を流したり、ゆっくりと入浴できる雰囲気作りに努めている。	入浴拒否の方もいたが、民謡好きな方や演歌好きの方は脱衣場でCDをかけたり、炭酸飲料が好きな方は炭酸飲料を準備したり、一人ひとりに合わせた入浴を心掛け、現在は週2～3回は入浴できている。2週間拒否した方に対しては無理に入浴させるのではなく、説明し納得してもらい入浴に成功している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、落ち着いて休める様、自席でブランケットを使用したり、自室やホールのソファでゆっくり過ごす事ができる様配慮している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・目的・用量・用法を個々の処方箋ファイル閉じて職員がいつでも確認できる様にしている。内服薬の変更があれば、都度回覧し内容を確認している。記録に説明書を添付し把握できるように努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し生活歴・嗜好品・楽しみ事等を全職員で理解し、一人ひとり毎日の生活パターンを把握しメリハリのある生活を心掛けながら支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・散歩・買い物等にご本人様の希望を取り入れて一人ひとりのペースに合わせて外出支援に努めている。天気が良く過ごしやすい日には声を掛け近隣公園を散歩するなど気分転換を心掛けている。また、ご家族様にも外出・外食に協力して頂いている。	希望がある方は、都度対応しているが、希望を自分から言わない利用者には、新聞のチラシを見ながら、ピザやドーナツ、ラーメン屋等「食べたい」意向を引き出し支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様ではあるが、買い物の際、お金を渡し、支払いが出来る様に支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて電話を使用している。手紙やはがきのやり取りをされ馴染みの方と連絡されている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたポスターを作製し飾り、季節感を出している。	調査時は、お正月の書初めが飾られており、一人ひとり個性的な言葉が書かれていた。飾り物は製作が難しく、職員中心で作っているが、一緒に飾りつけし、なるべく何でも一緒にやってもらえるよう配慮している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、入居者様同士気兼ねなく過ごせる様に配慮している。また、気の合った方同士で思い思いに過ごせる環境作りに配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やお仏壇、思い出の品等ご本人が見覚えのある物を置き、安心して過ごせる居室にしている。	ベッドとクローゼットのみ施設の物で、それ以外は全て本人の持ち込みである。マッサージ機が日課の方はマッサージ機を、兄弟の方は一部屋に2台のベッドを入れたり、家族が付き添う方は家族の方のベッドをと、自由な居室となっていた。お仏壇を持ち込んでいるが、鈴を鳴らすのを忘れ、別の利用者が本人を誘導し、毎日きちんと鳴らしているとのこと。	
53		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどには分かりやすい様に掲示している。また、見守りにも重点を置き、廊下・トイレ・浴室等に手すりを設置し安全に自立した暮らしが送れる様に工夫している。		